

今

がんばっています

七浦小学校

本校学区には、佐渡ジオパークおすすすめコースにも紹介されている風光明媚な海岸線や河岸段丘を有する二見半島があります。これらの「地域の宝」を地域の方々と共に学び、深めていくことで、それらの宝を大事にする心を育んでいます。

1 ジオパーク学習会の実施

自分たちの住んでいる地域にはどのような宝があるのだろうか。まずは、その宝の価値を教職員も子どもも知ることから始めました。ジオパーク推進室の職員を講師に招き研修会を行ったり、地域の団体「七浦ドーナツ」と連携し、ジオパーク学習を実施したりしました。



ジオパーク学習会の様子

日本海誕生前に起きた大規模陸上火山がもたらした岩礁海岸長手岬や二見半島の段丘と人々の暮らしを学びました。

2 長手岬清掃活動

毎年、全校児童と保護者で長手岬清掃活動を実施しています。

広くなだらかに続く長手岬の隆起波食台海岸を縦割り



長手岬清掃活動の様子

り班に分かれてきれいにします。夏のキャンプ場、冬の岩のりの収穫所として、人々の生活を潤す場でもあるこの海岸を大切に保護していく活動として取り組んでいます。

「地域の子どもは地域の教育力で育つ」この言葉がさまざまな活動と結びついています。これからも次代を担う子どもたちのために地域と連携・協働した教育活動に取り組んでいきます。

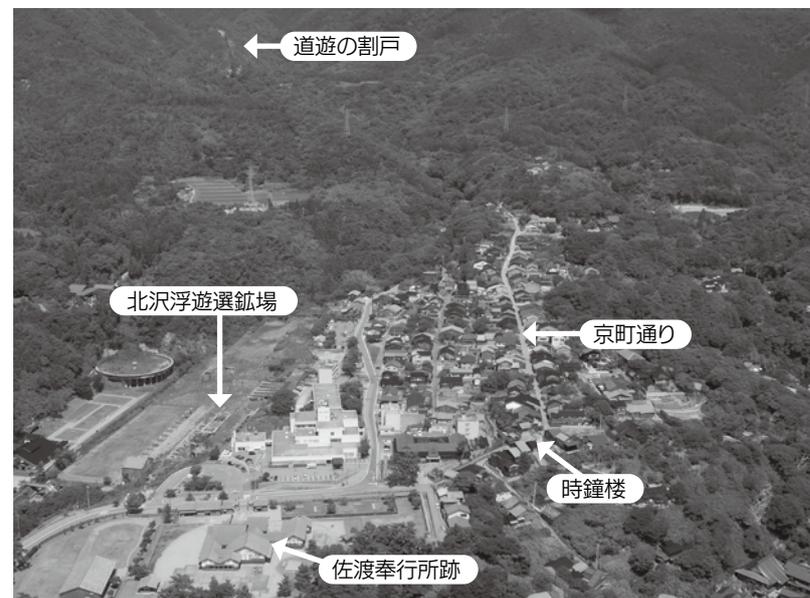
☎ 学校教育課 58-7351



世界遺産登録に向けて

鉱山町あいかわ・上町散策④ 上町の成り立ち

慶長元（1596）年に発見されたと伝わる相川金銀山は、慶長6（1601）年に鶴子銀山の山師によって、本格的な採掘が開始されました。そのため相川には、日本各地から多くの人々が集まり、上相川や間ノ山などに鉱山集落ができていきました。



空から見た上町(相川地区)

慶長8（1603）年には、佐渡代官であった大久保長安が、相川金銀山から海へとつながる尾根上に現在の相川の市街地の原型となる大規模な町立てを行いました。台地の先端には佐渡奉行所が設けられ、上町が形成されました。そして、金銀山と奉行所とを結ぶ主要道を整備し、その道に沿って職業別に町が割り当てられました。時代が進むにつれて、職業別の居住形態は崩れてしまいましたが、現在も坑夫が住んだ「大工町」や山師の名が残っています。「新五郎町」、商家が並んだ「京町」などの町名が、町割りの名残として残っています。

☎ 世界遺産推進課 63-5136